【様式等一覧】

・様式１－１　リハビリテーション科専門医認定更新申請書

・様式１－２　勤務実態の自己申告書

・様式１－３　単位集計表

・様式１－参考資料　勤務実態自己申告書：詳細

・様式２－１～５　症例一覧表

・様式３　専門医共通講習受講証明書

・様式４　リハビリテーション科領域講習受講証明書

・様式５　リハビリテーション科領域学術業績等証明書

【参照資料】

・参照資料１　リハビリテーション科専門医　教育研修単位一覧表

**【更新時に提出する書類】**

**・様式１－１**

**・様式１－２**

**・様式１－参考資料**

**・様式２－１～５**

**※様式１－３、様式３～５は、単位状況を事務局で把握しておりますので、提出不要です。**

（様式１－１）

日本専門医機構認定リハビリテーション科専門医資格更新申請書

（西暦）　　　年　　月　　日

一般社団法人 日本専門医機構　御中

フリガナ

氏　　名

生年月日　　　　　年　　月　　日

勤務先名

勤務先住所　〒　　　‐　　　　　　　　TEL：

自宅住所　　〒　　　‐　　　　　　　　TEL：

学　　歴　　　　　　年　　月　　　　　　　大学卒業

医籍登録番号　　第　　　　　　　　　号

医籍登録年月日　　　　　年　　月　　日

専門医登録番号　第　　　　　　　　　号　　　初回認定日　　　　　年　月　日

現在の認定期間　　　　　年　月　日　～　　　　年　月　日

指導医登録番号　第　　　　　　　　　号　　　初回認定日　　　　　年　月　日

現在の認定期間　　　　　年　月　日　～　　　　年　月　日

学位（任意）　有　　　　　年　　月取得　　　　無

メールアドレス１

メールアドレス２

（様式１－２）

勤務実態の自己申告書

【勤務実態】

勤務形態については、直近１年間の実態を記載ください。

1週間当たりの診療関与時間：(　　　)時間/週

・勤務形態（主に従事する医療機関は必須： a. b. c. いずれかを選択）

a. 病院常勤医師として勤務している （はい、いいえ）

勤務先　 (　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)　所属科（　　　　　　　　　　　）

責任者署名（自署）

b. 診療所リハビリテーション科常勤医師として勤務している （はい、いいえ）

勤務先　 (　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)　所属科（　　　　　　　　　　　）

責任者署名（自署）

c. 病院または診療所リハビリテーション科非常勤医師として勤務している

（複数ある場合はすべて記載）

（　　　）時間/週　 勤務先　(　　　　　　　　　　　　　)

（　　　）時間/週　 勤務先　(　　　　　　　　　　　　　)

（　　　）時間/週　 勤務先　(　　　　　　　　　　　　　)

・　その他： （　　　　）時間/週　勤務内容（例：老健、行政機関、福祉施設、教育機関など）（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【前回日本リハビリテーション医学会認定後申請時までの職歴等】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 期　　間 | 勤　　務　　先 | 職　名 |
| 自　 年 月 日  至　 年 月 日 |  |  |
| 自　 年 月 日  至　 年 月 日 |  |  |
| 自　 年 月 日  至　 年 月 日 |  |  |
| 自　 年 月 日  至　 年 月 日 |  |  |
| 自　 年 月 日  至　 年 月 日 |  |  |

※前回認定時と変更のない場合もご記入ください。

※大学院、留学の場合は勤務先欄にその旨を記載してください。

※教育施設に非常勤で所属の場合は、主たる職歴に並列して記載してください。

（様式１－３）

単位集計表

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | | 直近５年間の  取得単位 | 更新申請に  必要な単位 |
| i) 診療実績の証明 | 症例一覧の提示による診療実績 | 10単位 | 10単位 |
|  |  |  |  |
| ii) 専門医共通講習 | a.必修講習 | 医療安全：  単位 | 各1単位以上必須 |
| 感染対策：  単位 |
| 医療倫理：  単位 |
| ※指導医講習会：  単位 |
| b.その他 | 単位 |  |
| a＋b | 単位 | 3単位以上必須  最大10単位 |
| iii) リハビリテーション科領域講習 | | 単位 | 20単位以上 |
| ※指導医講習会：  単位 |  |
| iv) 学術業績・診療以外の活動実績 | | 単位 | 4～10単位 |
| 小計（ⅱ+ⅲ+ⅳ） | | 単位 | 40単位 |
|  | |  |  |
| 総合計（ⅰ＋ⅱ＋ⅲ＋ⅳ） | | 単位 | 50単位 |

※指導医講習会を 2019年3月31日まではⅱ)専門医共通講習として扱い、2019年4月以降はⅲ)リハビリテーション科領域講習として扱うこととなりました。

なお指導医講習会は１回以上の受講が必須になります。

事務局記入欄

日本リハビリテーション医学会会員番号

受付年月日　　　　　　年　　　月　　　日

（様式１－参考資料）

勤務実態自己申告書：詳細

以下は専門医の活動の実態を把握するための参考とします。祝日や学会出張等がない平均的な1週間の勤務実態を想定して記載してください。

診療活動 小計（　　　　）時間/週

一般外来診療 （　　　　）時間/週

入院診療 （　　　　）時間/週

臨床検査 （　　　　）時間/週

手術 （　　　　）時間/週

その他：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ （　　　　）時間/週

診療管理と教育活動 小計（　　　　）時間/週

カンファレンス （　　　　）時間/週

診療に関わる委員会活動 （　　　　）時間/週

学生・研修医・専攻医指導 （　　　　）時間/週

メディカルスタッフ指導 （　　　　）時間/週

その他の臨床的活動 小計（　　　　）時間/週

健康相談 （　　　　）時間/週

臨床に関わる書類作成 （　　　　）時間/週

その他： （　　　　）時間/週

専門医として相応しい病院外での医療活動 小計（　　　　）時間/週

内容記載→ （　　　　）時間/週

内容記載→ （　　　　）時間/週

（様式３）

**専門医共通講習受講証明書**

（西暦） 　　年 　　月 　　日

日本専門医機構

専門医委員会　殿

所属（施設）

（施設）住所

主催責任者

※公印をご捺印ください。

下記のことを、証明致します。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　記

|  |  |
| --- | --- |
| 受 講 者 |  |
|
| 受講日時 | 平成　　　年　　　月　　　日　　　　時　　　分　～　　　時　　　分 |
| 講習会名  講習テーマ |  |
|
| 講 師 名 |  |
| 受講内容 | **※下記のいずれかを選択してください。**  ☐　A: 医療安全講習  ☐　B: 感染対策講習  ☐　C: 医療倫理講習  ☐　D: その他（機構の提示内容に該当する項目名を記載） |
|

（受講者の学会専門医番号　　　　　　　　　）

過去において受講済みの講習においては

下記の項目について記載のある受講証明書のコピーで代用することができる。

受講者の氏名

所属施設

講習の日時

講習会名

及び講習会テーマ名

講師名

発行責任者名

（講師名、講習テーマについては資料添付の形式でも可）

（様式４）

リハビリテーション科領域講習受講証明書

単位集計表（様式１－３）に記載した単位に相当するものを添付してください。

（様式５）

リハビリテーション科領域学術業績等証明書

単位集計表（様式１－３）に記載した単位に相当するものを添付してください。

（参照資料１）

リハビリテーション科専門医　教育研修単位一覧表

iii) リハビリテーション科領域講習に算定できる単位（原則として1時間1単位）

　　　　 日本リハビリテーション医学会学術集会教育研修講演 1単位

　　　日本リハビリテーション医学会学術集会で指定するセッション

（リハビリテーション科領域講習特別プログラム） 1～2単位

　　　日本リハビリテーション医学会秋季学術集会教育講演 1単位

　　　日本リハビリテーション医学会秋季学術集会で指定する

セッション（リハビリテーション科領域講習特別プログラム） 1～2単位

　　　日本リハビリテーション医学会地方会が指定する講演　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 1単位

　　　日本リハビリテーション医学会が主催または後援する研修会

（「リハビリテーション関連研修会」別記(2)の②）　　 4単位

【注】：リハビリテーション関連研修会は5年で12単位までのみ認められます。

　　　その他国内における集会（別記(２)の③④⑤）で日本リハビリテーション医学会

または地方会が指定する講演　 1単位

iv) 学術業績・診療以外の活動実績に算定できる単位

　○教育的企画・学術集会等への参加

　　　日本リハビリテーション医学会学術集会　　　　　　　　　　　　　　 　　　　2単位

　　　日本リハビリテーション医学会秋季学術集会　　　　　　　　　　　　 　　　　2単位

　　　日本リハビリテーション医学会地方会学術集会（別記(1)） 　　　　　　 　　　　1単位

　　　日本医学会総会　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　1単位

　　　国内におけるその他の集会（別記(2)の①）　　　　　　 　　　 　 　　　　1単位

　　　国際学会（別記(3)）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　1単位

※参加による単位は、『5年間で上限6単位』となっております。

○業績発表

　　　【学術発表】下記におけるリハビリテーション科に関する発表　　　　筆頭　 1単位

　　　　　　　　　　　　　　　　最も貢献度の高い共同発表者１名 　　　　1単位

日本リハビリテーション医学会（学術集会、秋季学術集会、地方会を含む）

（一般演題、シンポジウムなどを含む）

　　　　　国際学会（別記(3)）

　　　【座長】下記におけるリハビリテーション科に関する発表の座長　　　　　 1単位

日本リハビリテーション医学会（学術集会、秋季学術集会、地方会を含む）

（一般演題、シンポジウムなどを含む）

　　　　　国際学会（別記(3)）

　　　【学術誌・著書等における発表】

　　　　　日本リハビリテーション医学会雑誌掲載論文　　　　筆頭著者　2単位　共著者　1単位

　　　　　Progress in Rehabilitation Medicine　　　　　　 筆頭著者　2単位　共著者　1単位

American Journal of Physical Medicine and Rehabilitation

Archives of Physical Medicine and Rehabilitation

Journal of Rehabilitation Medicine

Disability and Rehabilitation

Physical Medicine & Rehabilitation

Clinical Rehabilitation

International Journal of Rehabilitation Research

European Journal of Physical and Rehabilitation Medicine

Journal of Rehabilitation Research and Development

以上に掲載された論文　　　筆頭著者　2単位　共著者　1単位

その他、リハビリテーション科専門医委員会が指定するピアレビューのある学術雑誌

（商業誌を除く）におけるリハビリテーション科関連論文

筆頭著者　2単位　共著者　1単位

○その他

　　　　The Japanese Journal of Rehabilitation Medicineの査読　１編につき１単位

　　　　Progress in Rehabilitation Medicineの査読　　　　　　　　　 １編につき１単位

別記(1) 日本リハビリテーション医学会の地方会

　北海道地方会　　東北地方会　　　関東地方会　　北陸地方会

　中部・東海地方会　　　近畿地方会　　　中国・四国地方会　　　九州地方会

別記(2) 国内におけるその他の集会など

①リハビリテーション医学に関係のある全国規模の学会学術集会（以下「関連学会」）

日本整形外科学会、日本リウマチ学会、日本神経学会、日本義肢装具学会、日本臨床神経生理学会、

日本脊髄障害医学会、日本老年医学会、日本脳性麻痺研究会、日本脳卒中学会、日本脳神経外科学会、日本末梢神経学会、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会、日本高次脳機能障害学会、日本脳性麻痺の外科研究会、日本小児神経学会、日本認知症学会、日本心臓リハビリテーション学会、日本骨代謝学会、日本腎臓リハビリテーション学会、日本ニューロリハビリテーション学会、日本ボツリヌス治療学会、日本運動療法学会、日本骨粗鬆症学会、日本スティミュレーションセラピー学会、日本側弯症学会、日本意識障害学会、　日本 Knee Osteotomy and Joint Preservation 研究会

②日本リハビリテーション医学会が主催または後援する研修会（以下「リハビリテーション関連研修会」）

日本リハビリテーション医学会主催

　実践リハビリテーション医学研修会

日本リハビリテーション医学会共催

　以下の研修会はいずれも、2日間以上の研修会であって、4つ以上の研修講演（60分）を含む。修了証が必要。

厚生労働省主催義肢装具等適合判定医師研修会

臨床筋電図・電気診断学入門講習会、脊損尿路管理研修会、小児のリハビリテーション実習研修会、　　　福祉・地域リハビリテーション実習研修会、「動作解析と運動学実習」実習研修会、

義手・義足適合判定医師研修会ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ･ｺｰｽ、職業リハビリテーション研修会、嚥下障害実習研修会、

リハビリテーションに活かす医療コーチング研修会、回復期リハビリテーション病棟専従医師研修会【アドバンスコース】、急性期病棟におけるリハビリテーション医師研修会、生活期リハビリテーションにかかわる医師のための研修会、かかりつけ医のための訪問リハビリテーション診療に関る研修会

③（旧２f）すでに日本リハビリテーション医学会で認められている研究会および研修会

あ 愛知県整形外科医会リハビリテーション研究会

い 茨城リハ医の会

茨城県総合リハビリテーションケア学会

茨城県リハビリテーション病院懇話会

出雲リハビリテーション研修会

茨城県回復期リハビリテーション病棟の会

いしかわ地域リハビリテーション研究会

う 運動器リハワークショップ鳥取

え 愛媛県リハビリテーション研究会

お 大分県リハビリテーション医学会

大阪整形外科・リハビリテーション研究会

大阪リハビリテーション医学研究会

沖縄県リハビリテーション医学会・協会

大阪臨床整形外科医会リハビリテーション研修会

大阪リウマチケア研究会

か 川崎スポーツリハビリテーションフォーラム

鹿児島リハビリテーション医学研究会

関節・脊椎リハビリテーションin和歌山

神奈川リウマチのリハ・ケア研究会

上飯田リハビリテーションセミナー

回復・維持期リハを考える会

き 岐阜県回復期リハビリテーションセミナー

岐阜リハビリテーション研究会

北九州リハビリテーション医会

京都地域リハビリテーション研究会

北九州スポーツリハビリテーション研究会

京都リハビリテーションフォーラム

京都府リハビリテーション教育センター

京都リハビリテーション医学研究会

く 群馬リハビリテーション医学懇話会

群馬リハビリテーション医学フォーラム

群馬地域リハビリテーション研究会（群馬リハビリテーションネットワーク）

区西南部リハビリテーション研究会

熊本県回復期リハビリテーション病棟研究会

こ 高度先進リハビリテーション医学研究会

さ 佐賀リハビリテーション研究会

埼玉アスレチック・リハビリテーション研究会

埼玉県リハビリテーション医会

三四郎リハビリテーションコンソーシアム

佐賀県リハビリテーション科医会

し 島根リハビリテーション研究会

静岡リハビリテーション懇話会

滋賀県リハ推進医会総会・研修会（滋賀県のリハビリテーションを推進する医師の会）

JSDR20周年記念国際摂食嚥下シンポジウム(日本摂食嚥下リハ学会)

た 多摩地域リハビリテーション研究会

ち 千葉県リハビリテーション医学懇話会

筑後整形外科・リハビリテーション研究会

筑後地区リハビリテーション研究会

と 栃木県リハビリテーション談話会

東葛リハビリテーション臨床懇話会

徳島リハビリテーションフォーラム

な 長崎県リハビリテーション懇話会

七栗リハビリテーション研究会

に 日本義肢装具学会研修セミナー

日本ＲＡのリハビリ研究会

日本肩関節学会

日本運動器科学会

は 浜松ロコモ研究会

ひ 広島義肢装具研究会

東三河運動器リハビリテーション研究会

広島リハビリテーション研究会

ふ 福岡県リハビリテーション研究会

福井県リウマチケア研究会

ほ 北海道リハビリテーション学会

北陸がんのリハビリテーション研究会

み 三重県義肢装具・リハビリテーション研究会

宮崎リハビリテーション研究会

宮城県リハビリテーション医療研究会

南河内リハビリテーション研究会

宮城脳卒中リハビリテーション講演会

宮城県リハビリテーション医会

む 村山地区大腿骨頚部骨折研究会,大腿骨頚部骨折維持期連携の会

や 山口県リハビリテーション研究会

山梨リハビリテーション研修会

山梨県大腿骨頸部骨折地域連携パス研究会

よ 横浜リハビリテーション研究会

り リハビリテーション研究会 in Yonago

臨床高次脳機能研究会えひめ

リウマチの治療とケア研修会

わ 和歌山臨床RAフォーラム

和歌山リハビリテーション医学研究会

等

④（旧２−g　）地方会で認められた研究会での講演

⑤理事会で認められたその他の研修会講演

　リハビリテーション・サミット2015　等

別記(3) 国際学会

The International Society of Physical and Rehabilitation Medicine (ISPRM)

Asia-Oceanian Conference of Physical and Rehabilitation Medicine（AOCPRM）

The American Academy of Physical Medicine and Rehabilitation (AAPM&R)

The Association of Academic Physiatrists (AAP)

追記

　以下については日本リハビリテーション医学会で別に定める。

但し項目２、４は2016年度より開始する。

１．学術集会では、リハビリテーション科領域講習と共通講習を合算し1日あたり7単位まで、1回の参加あたり7単位×会期日数までの単位取得を認める。

２．学術集会で指定するセッション（リハビリテーション科領域講習特別プログラム）として、３単位までの単位取得を認める。リハビリテーション科領域講習特別プログラムは、テーマを一つに統一し、1時間あたり３名までの講演者により構成される。講演者のなかに領域のエキスパート１名による講演を含み、他講演者の講演内容を総括するものとする。リハビリテーション科領域講習特別プログラムは、１時間以上２時間未満の場合は１単位、２時間以上の場合は２単位を付与する。

３．秋季学術集会では、リハビリテーション科領域講習と共通講習を合算し1日あたり7単位まで、1回の参加あたり７単位×会期日数までの単位取得を認める。

４．秋季学術集会で指定するセッション（リハビリテーション科領域講習特別プログラム）として、２単位までの単位取得を認める。リハビリテーション科領域講習特別プログラムは、テーマを一つに統一し、１時間あたり３名までの講演者により構成される。講演者のなかに領域のエキスパート１名による講演を含み、他講演者の講演内容を総括するものとする。リハビリテーション科領域講習特別プログラムは、１時間以上２時間未満の場合は１単位、２時間以上の場合は２単位を付与する。

５．地方会学術集会や主催する生涯教育研修会などで指定する講演では、リハビリテーション科領域講習と共通講習を合算し1日あたり４単位まで、２日以上開催する場合は1回の参加あたり８単位までの単位取得を認める。

６．関連学会では、日本リハビリテーション医学会に申請があり、認められた３講演（３単位）まで単位取得を認める。

７．旧２f研究会では、２講演（２単位）までの単位取得を認める。

　　　なお　講演申請料については、いままでどおり、１講演につき１万円の申請料がかかる。

　　　何講演でも申請できる。

８．旧２gでは、１講演（１単位）まで認める。なお講演申請料については、１講演につき１万円の申請料がかかる。

９．リハビリテーション関連研修会は４単位とする。